

平成29年度埼玉県東部地域保健医療・地域医療構想協議会 議事概要

1 日時

平成29年10月19日（木） 午後2時30分～午後4時15分

2 会場

春日部地方庁舎 3階大会議室

3 出席者

・協議会委員（別紙名簿のとおり）

委員総数29人 出席27人（代理3名含む） 欠席 2人

・事務局等

管内市・町職員

保健医療政策課、医療整備課、春日部保健所、草加保健所、越谷市保健所職員

・傍聴者

なし

4 議事内容

（1）第7次埼玉県地域保健医療計画について

資料1により保健医療政策課が説明した。

（質疑等）

- ・胃がん検診の受診率について、ABC検診（胃がんリスク層別化検査）は受診率に入るのか。また、内視鏡検診とバリウム検診と両方を兼ねているところはどうなっているか。
→直接の担当課である疾病対策課に確認し、回答したい。
- ・すばらしい計画だと思うが、マンパワーとマネーは大丈夫なのか。
→6か年の計画になるが、長い視点の中でそれぞれの項目が実現できるように県としては予算を確保していく。

（2）第6次地域保健医療計画における東部保健医療圏の取組状況及び第7次重点取組案について

資料2, 3により事務局が説明した。

（質疑等）

- ・資料2-2の第二次救急医療体制について、小児救急支援事業の実績については、平成25年から平成26年は減少しているが、これは東部南地区の輪番制の救急車の受入に該当する人数が減っているということ。該当する日の輪番制病院ではないところに行っている人がカウントされていないので減っているように見えても、全部あわせた内容はそれほど変わらない。
- ・資料3のがん検診受診率の向上とあるが、がん検診の対象は5大がんということでもよろしいか。5大がんには前立腺がんが入っていないが前立腺がんはもうすぐナンバーワンキラーになるのが目に見えている。「埼玉県では積極的に前立腺がんを検診に入れている」というメッセージが入るとよいのではないか。
- ・資料2-4に75歳以上の後期高齢者の増加率があり、埼玉県の平均は53.6%、東部医療圏67.5%となっている。後期高齢者の増加率については、東部医療圏は日本でも

1, 2番に増える有数の地域と認識している。三次の医療機関や二次や一次の医療機関が病状や高齢者のサブアキュート(在宅・介護施設等からの患者で症状の急性増悪した患者)との連携の仕組み作りに取り組み、施策の中に入れた方がよい。この医療圏は、日本で高齢者が増える有数の医療圏であるので埼玉県に先駆けてこの医療圏からそういう仕組みを作ったらどうか。

(3) 平成28年度病床機能報告(東部保健医療圏)及び地域医療介護総合確保基金について資料4により保健医療政策課が、資料5により医療整備課が説明した。

(質疑等)

- ・回復期の地域包括ケア病床や回復期リハ病床に転換したところは、今までの実績の中で病床機能報告制度で回復期という報告をしているか。
→地域包括ケア病床は、当該病棟の主な機能で報告している。必ずしも回復期を選んでいる訳ではないため、ずれはあるかもしれない。
- ・基金を活用した病床転換の目的が、病床転換のためにやっているというのは趣旨が違う気がする。地域医療構想の趣旨は、大病院から民間の中小病院まで若しくは介護施設まで、機能分担して地域で連携するということである。それが大病院の中に地域包括や回復期リハが入ることで、大病院での完結型になりかねない。基金が有効に活用されていけばよい。